



TITLE:

2007年度岩本ゼミ活動報告

AUTHOR(S):

嶋田, 悠一

CITATION:

嶋田, 悠一. 2007年度岩本ゼミ活動報告. 岩本ゼミナール機関誌 2008, 12: 138-140

ISSUE DATE:

2008-02-19

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/57050>

RIGHT:

2007年度 岩本ゼミ活動報告

嶋田 悠一

・ 春合宿

春合宿は名古屋で行った。

2 回生および今期から岩本ゼミに所属する 3 回生以上の人には「セイヴィング キャピタリズム」(ラグラム・ラジャン, ルイス・ジンガレス著, 慶應義塾大学出版会)を輪読した。

この本は先生の紹介で春合宿に使用することを決めた。この本は主に金融に焦点を当て、資本主義体制が必要であるが脆弱である点を指摘している。過去にさかのぼって資本主義体制の長所・短所を分析し、今後どのような資本主義体制を築くべきかの指針を与え、かつ資本主義体制の必要性を述べている。企業のスキャンダルが多く報じられ、市場メカニズムに対する批判も出ているなか、改めて資本主義体制の是非を考えるよい機会になったと思う。

3 回生は現時点で興味を持っているテーマを各自で選んで発表する形式をとった。後期に論文を書く、もしくはディベートをする際にテーマを決める必要があり、テーマ決めに役立つようこの時期から経済の動きに目を向けるよい機会になると思いこの形式を採用した。各自様々なテーマを個性的な視点で分析しており、お互いに刺激にもなりよかったと思う。

勉強以外では名古屋城を観光したり、ひつまぶしやみそかつなど名古屋名物を堪能するとともに、2 回生には岩本ゼミの雰囲気を感じ、3 回生との関係を深めるいい機会になった。

・ 前期ゼミ

今年の岩本ゼミは新たに 15 期生に 11 名の 2 回生、14 期生に他ゼミからの転籍、他学部からのオブザーバーとしての参加など 4 名を加えて、かつてないほどの大所帯でスタートした。

テキストは「International Economics～theory&policy～」(Krugman Obsfeld)を使用し、前半の国際貿易を輪読した。前年度に引き続き、2 回生と 3 回生がペアになって発表する形式をとった。特に 2 回生は原文を訳すのに苦労したと思うが、今のうち

から英語の専門用語などに触れておくことは、後期のデータ集めなどに大いに役立ったと思う。しかし次第にマンネリ化した感もあり、個人の発表にとどまらずもっと活発に議論できる場にできればよかったと思う。

サブゼミでは有志がマクロの勉強をした。1限に行ったが予想以上の2回生が参加した。また2回生は自分たちで集まってミクロを教えあうなど、各自が自分の課題克服に向けて取り組んでいる姿勢が頼もしかった。

・ 夏合宿

夏合宿は香川の坂出で行った。

去年の反省を生かし、今年度は後期インゼミの動き出しを速くすることにした。夏休み中にテーマの設定を行い何度かミーティングをすることにした。これを受けて夏合宿は各班の中間報告と位置づけ、テーマ設定と勉強の方向性について先生から指摘・アドバイスをいただいた。(各班の内容は後述する)これにより各班の課題も浮かび上がり、後期に向けての準備ができた。

その後は香川を観光し、讃岐うどんを食べた。

・ 後期ゼミ

後期のゼミはインゼミに向けて各班の活動の途中経過を発表することにした。

ディベートは例年通り高崎経済大学の矢野ゼミと行った。今回のテーマは「日タイ FTA は日本にとってプラスかマイナスか」で、農業分野と自動車産業に絞って議論した。岩本ゼミはマイナスを主張する立場、矢野ゼミはプラスを主張する立場に立った。岩本ゼミにとっては農業分野でのマイナスを攻めて、いかに自動車産業で相手の主張をかわすかが課題であった。農業分野に関しては上甲君が中心になってうまく相手を攻めることができた。自動車産業は平石君が中心になって相手の主張をかわしたが、議論が自動車の細かい部品にまで入り込んで分かりにくい部分が多かった。2回生もデータ集めで3回生をサポートし、ディベートでは積極的に発言する姿勢もあった。結果は岩本ゼミの勝利に終わった。ディベートに関して、司会進行、審判をつとめていただいた4回生、および準備をしてくれたゼミ生に感謝したい。

ISFJ班は去年の論文で述べられた政策提言の1つであるアジア通貨バスケットの導入について、より発展的な議論をした。具体的には通貨バスケットの構成通貨、そのウェイトについて先行研究を折衷して独自のモデルを作り、具体的な数値を示した。去年より論文の提出日が大幅に早まり、時間がないなか、論文の方向性について様々な議論を

できたことはよかった。限られた時間の中で出来る限りのことは出来たと思う。数多くのデータを集めたり、中間報告会に出席するなどみんな忙しい中、積極的に貢献してくれた。

三大学班は去年に引き続き、大阪大学の阿部ゼミ・神戸大学の中西ゼミとの合同論文発表会に向けた論文を書いた。当初はアメリカ半導体企業連合体「セマテック」にみられるアメリカの戦略的貿易政策をテーマにし、セマテックの傾城及び研究開発に対する政府補助金がアメリカ半導体産業にどのような役割を果たしたかを経済学的実証分析を試みた。しかしこれには政治的要因や景気変動の影響が大きく断念した。そこで政府補助金がセマテックメンバー企業の研究開発投資のポートフォリオに与えた影響を分析した。三大学班は日程的に余裕があったが、その分議論をする余地が大きくあり試行錯誤し、それに伴い様々な困難があったが近藤さんを中心に乗り切ってくれた。

・ 後記

岩本ゼミとして1年間無事に活動することができたのはひとえに先生・先輩方の助けがあったからにほかならない。改めて感謝します。

ゼミ活動は普段の授業とは違い、同じ分野に興味を持つ仲間が集まって、仲を深めながら切磋琢磨できる場であった。また仲間と協力して1つの論文を書いたり、ディベートをするという経験はゼミ特有のものであり、特に2回生にとってはよい経験になったと思うとともに、ゼミ生として頼もしく成長したと思う。3回生はゼミで得た知識・経験を就職活動で生かし、また来期の2回生に伝えてほしいと思う。

今期のゼミ活動では、よい点もあったと思うが課題も多かったと思う。来期は三木君を中心に課題を改善して、より一層魅力的かつ、生徒を成長させてくれるゼミにしてほしいと思う。

最後に私事になりますが、ゼミ長として至らない点が多かったにもかかわらず、支えてくれた先生・先輩方・ゼミのメンバーに感謝したい。